

# 仲里ハルさん

1927(昭和2)年1月生まれ

沖縄県宮古島

所属 積徳学徒隊

(私立積徳高等女学校)

第24師団第2野戦病院

戦地 豊見城～糸洲(現糸満市)



## ●1945(昭和20)年3月 第24師団第2野戦病院に入隊

私なんか4年生は、軍の命令で、東風平にある国民学校、この24師団の、衛生隊のそこにいるということで、そこに56名いったの、勉強しに。野戦病院の、治療の勉強しに行ったからね。白梅が、56名おんなじように。1ヶ月の予定が、非常に空爆が激しくなって、もう19日間で切り上げて、部隊に入隊。24師団の山部隊に、豊見城にあるからそこへ入隊した。その隊長が、「君らはね、非戦闘員だから、兵隊じゃない、軍隊じゃないから、帰る人は帰ってよい」私達は一人ずつ、みんな質問されて、31名帰った。ばいばいして、みんな泣きながら。で25名が残った。

野戦病院だから、役割部署がある。私は治療部、野戦病院の中枢部ですよ、野戦病院の外科だから、もう何でもこっちがやる。6名、選ばれた。私も。私に最初に与えられた任務はというと、膿盆持ってピンセットひとつ持って、寝てる負傷兵の傷口のガーゼ取り替えにピンセット持って行ったわけよ。その入院患者のところに。行ったらもうほんとにきいたこともない、習ったこともない、教わったこともない、ほんとにもう、ものすごい一瞬臭い。壊疽というのはね、なるとね、みんなこれ、もう99割、頭おかされる。してもうみんな意味不明の言葉。「水くれー、飯くれー、母ちゃん会いたい、母ちゃんどこにいるか」つちゆう。男の兵隊さん寝ているけどね、みんなでおしっこをやったらね、珍しくね、おしっこは出ているけど上に飛ぶの。そして傷口の、ガーゼのウジ虫を使ってすぐみんなに投げる。

## ●1945(昭和20)年5月27日 豊見城から糸洲の壕へ

全部糸洲のガマまでつれてったよ。25名、みんな無事で糸洲のガマまでいったよ。二日ぐらいは上等だったけど、4日ぐらいからね、またね、ガマのあの入口でね、爆破するわけ、爆弾が。アメリカの。そしてこれはね、黄燐弾。毒ガス、これ、ガマで爆破するでしょう、したらもう黄砂みたいに煙ってくるわけ。そして臭い。これはもう一番苦しい、だからうちなんかね、隊長恨んだよほんとに。なんでね、うちから、戦場に行くのに手榴弾取りあげた、隊長殿は私なんかを死なさないつもりだよ、自爆せんというつもりで、やっていきますって、それ恨みにとって、もういつ死んでもいいという気持ちだから、私なんかほんとに殺してやりたいというぐらいにね、隊長にね、反発していた。

隊長殿がね、最後の訓示よ、「君らはね、ほんとにね、学徒隊のみなさん、よく生きて、みんなと共に、ほんとに戦争のこと一生懸命やってくれたありがとう。君らはね、非戦闘員だから、絶対君ら自爆するな、そのために手榴弾を取りあげた」と。声出してみんなわんわん泣いたよ、隊長殿のことその時にわかったわけ。最後の言葉がね、「乙女たち」といつてくださった。私なんかに、最後に、学徒じゃない。「乙女たちよ、必ず生きて帰って、お父さんお母さんに会いなさい。そしてこの悲惨な戦場のことを、後世に伝えてくれ」と、これが隊長の最後の訓示。

## ●壕を出て数日後、気づいたら敵中に

私なんかは一番、私宮古島、八重山島、久米島の人同士、3名で、一番先に飛び出たわけよ。久米島の人が、ハルちゃん、右を回って見てごらんというから、右にして歩いて行ったらガジュマルの木の下よ、もうそこにね、日本の兵隊が見ているわけさ、私なんかを見てる。あれっと思ったら、ないの下は(首から下)。飛んで散らばってるわけ。

そしたら、アメリカ軍隊、その千名以上いる部隊、私なんかわからんで入ってるわけよ、敵中に。アメリカ2人来た。鬼畜米英って、角が生えてると思ってた。ほんとに思ってた。あれ普通の人間じゃないと私が言って笑ってたわけ。その時にね、この、私なんかの、こっちのほうさね、日本兵、2人立って、そのアメリカ兵にね、手榴弾投げてるわけよ。その結果、バーンとして、このアメリカ兵は即死、2人とも。そして私なんかその間に跳んだ。もうそのときにもう、救急袋一つもってすぐ、バーンと跳んだから。その時にパパーン。うちらが4名、民間の子もいれて4名なのね、10メートル5メートル先にみんなアメリカ兵小銃で銃撃だよ、銃撃された。当たらない人はいない。アメリカみんな真ん中だもん。パパパパーンとやったから、みんなやられたの。八重山の人がね、「はるちゃん逃げないで、助けて血が出る」て。もう一人の久米島の方は、「やられたーやられたー」というわけさ。そして民間の子も即死だった。すぐ下に。そして私はもう、なんとか、何も血が出てないわけよ、血が出てないけど。私はね、もうこの時ね、ほんとに、髪が、その、なんていう、三つ編みが飛んでくの、私わからないわけよ。

(取材日:2012年2月3日)